

# 家畜衛生情報

香 川 県 畜 産 課  
 TEL(087)832-3426~8 FAX(087)806-0204  
 香 川 県 東 部 家 畜 保 健 衛 生 所  
 TEL(087)898-1121 FAX(087)898-9558  
 香 川 県 西 部 家 畜 保 健 衛 生 所  
 TEL(0877)62-0020 FAX(0877)62-3299

## 豚コレラ対応について (平成31年度全国家畜衛生主任者会議から)

平成31年4月、農林水産省で全国家畜衛生主任者会議が開催され、その中から豚コレラの国内発生に伴う農場での防疫対策について紹介します。

### ○飼養衛生管理基準の遵守徹底が大前提です

豚コレラ発生に加え、中国及びベトナム等でアフリカ豚コレラが発生し、我が国への旅客が携帯品で持込んだ豚肉製品からウイルスが分離されたことを踏まえ、飼養衛生管理基準の遵守徹底が重要です。

#### \*衛生管理区域への病原体の持込みの防止

- ①関係者以外の立入制限      ②立ち入る車両及び人の消毒実施
- ③非加熱の肉製品を含む又は含む可能性のある食品循環資源を原材料とする飼料の加熱処理

#### \*野生動物等からの病原体の侵入防止

- ①給餌設備・給水設備への野生動物等の排せつ物等の混入の防止
- ②飲用に適した水の給与（必要に応じて消毒措置）
- ③家畜の死体の保管場所への野生動物侵入防止

#### \*衛生管理区域の衛生状態の確保

- ①畜舎・器具等の定期的な清掃又は消毒      ②空舎・空房の清掃及び消毒      ③密飼いの防止

### ○農場への侵入要因として考えられるもの（発生農場1~12例の疫学調査結果より：多い順）

- ①カラス、ネズミなどの野生動物を介した感染      ②ヒトを介した感染
  - ③農場内外で使用する重機・一輪車等を介した感染      ④農場を出入りする車両を介した感染
  - ⑤イノシシを介した感染      ⑥豚の移動を介した感染      ⑦ウイルスに汚染した飼料の給与
- ⇒飼養衛生管理基準の遵守徹底で対応できるものが多い！！

豚コレラに限らず家畜伝染病への対応では、「発生予防」、「早期発見・早期通報」、「発生時の迅速・的確な初動対応」に重点を置き、今後も、飼養衛生管理基準の遵守の徹底をお願いします。

### 疾病情報

## 家畜伝染病・伝染性疾病発生状況(近県)

疾 病 名	畜 種	発 生 場 所	発 生 時 期	発 生 戸 数	発 生 頭 羽 数
牛ウイルス性下痢粘膜症(届出)	牛	兵庫県、岡山県、島根県、香川県	H31.4月~R1.5月	3	4
牛 白 血 病 (届 出)	牛	兵庫県、岡山県、広島県、鳥取県 島根県、山口県、愛媛県 徳島県、高知県、香川県	H31.4月~R1.6月	93	101
破 傷 風 (届 出)	牛	岡山県、鳥取県	H31.4月~R1.5月	2	2
豚 丹 毒 (届 出)	豚	兵庫県、岡山県、広島県 鳥取県、島根県、愛媛県 徳島県、高知県、香川県	H31.4月~R1.6月	32	82
鶏 痘 (届 出)	鶏	島根県、山口県	R1.5月	2	11
伝 染 性 気 管 支 炎 (届 出)	鶏	鳥取県、愛媛県	H31.4月	3	31
バ ロ ア 病 (届 出)	蜜蜂	兵庫県、鳥取県	R1.5月~R1.6月	3	3
ア カ リ ン ダ ニ 症 (届 出)	蜜蜂	兵庫県、広島県、鳥取県、愛媛県	H31.4月~R1.6月	9	11
ノ ゼ マ 病 (届 出)	蜜蜂	兵庫県	H31.4月	1	1
兔 ウ イ ル ス 性 出 血 病	兎	愛媛県	H31.4月	1	10

## 難治性乳房炎の原因となるウベリスレンサ球菌について (令和元年度牛疾病特殊講習会より)

乳房炎の原因菌の中でも、抗生物質が効きにくい代表的なものに環境性レンサ球菌があります。環境性レンサ球菌による乳房炎の症状の多くは、乳房の腫脹・硬結や凝集物を含む乳汁等の局所症状に局限しますが、発熱等の激しい全身症状を伴う急性乳房炎となり水様乳を示すこともあります。

今回は、環境性レンサ球菌の中でも特に難治性になりやすいウベリスレンサ球菌を紹介します。

ウベリスレンサ球菌による乳房炎は、近年、全国的に増加し問題となっています。北海道の一部地域、94農場のバルク乳検査を行った結果、21農場（22.3%）が陽性であったとの報告があります。

本菌は、牛の糞便から排出され、牛舎内の敷料・牛床や通路だけでなく、飼料や牛舎周囲の土・草地等広く汚染し、その汚染された環境から乳頭に侵入・感染します。特に、乾乳期に新規感染が多く、乳腺深くまで侵入します。

本菌による乳房炎の完治は、難しく、再発を繰り返し、盲乳や淘汰に至ることもあるため、予防することが重要です。予防法については、以下のとおりです。

### 〔予防法〕

- 1 環境中の原因菌を減らすこと（頻繁な敷料交換や石灰散布、堆肥化处理、清掃等）
- 2 乳頭口からの菌の侵入機会を減らすこと（ディッピング実施、搾乳後の乳頭消毒、搾乳機器の整備等）
- 3 乾乳期の新規感染を防ぐため乾乳期治療や牛用乳頭保護液（乾乳期用乳頭シールド剤）などの実施
- 4 早期発見に努めること（バルク乳のスクリーニング検査等）



難治性乳房炎を防ぐためには、牛の観察、日々の搾乳衛生、畜舎環境の衛生対策が最も重要です。乳房炎検査については、最寄りの家畜保健衛生所へご相談ください。

## 養豚場の生産性評価システム「PigINFO」をご存知ですか？ (令和元年度豚疾病特殊講習会より)

「PigINFO」は、動物衛生研究部門（国内唯一の動物衛生に関する専門研究機関）と日本養豚開業獣医師協会が共同で構築した養豚場の生産性評価システム（ベンチマーキングシステム）です。2010年から利用が始まり、現在全国で190農場、母豚規模で約14.5万頭（国内の17%）が参加しています。生産データ（出荷頭数、事故頭数、離乳頭数など）を収集し、それから算出した30項目の指標（事故率、増体重など）を他農場の数値と比較し、経営改善に役立てるシステムです。

3ヶ月おきに、生産者から生産データを送付すると、そのデータを分析し、結果がフィードバックされます。その結果には、各項目毎に参加全農場と比較した順位や評価結果（A～F）が明記されており、劣っている項目には、改善目標値を提示し、目標値を達成した時に推定される増収益を知らせています。

生産者は評価結果に基づいて、改善に取り組むことで、生産性を向上させ、より強固な養豚経営を目指すことができます。参加農家の中には、家族経営小規模農家で5年間の取組みで年間5500万円の増収となった方もいるそうです。

「儲かる農業」を目指すには、①生産成績を把握する ②改善点を意識し、重点的に取り組む ③改善のための工夫・努力をすることが重要です。生産成績を評価し、改善点を示してくれるこのシステムを経営に役立ててみてはいかがでしょうか？

「PigINFO」に興味のある方は、最寄りの家畜保健衛生所から連絡先をお知らせしますので、お問い合わせください。

# 大規模ブロイラー農場で発生した腎炎型伝染性気管支炎について (第60回中国四国ブロック家畜保健衛生業績発表会から)

伝染性気管支炎（IB）はウイルスによる鶏の急性感染症で、臨床症状として、呼吸器症状や産卵低下などの産卵障害、下痢などが観察される届出伝染病です。また、腎炎型になると呼吸器症状が確認できなくても下痢が目立ち、高い死亡率がみられることもあります。なお、この腎炎型は肉用鶏（ブロイラー）に多くみられます。今回、中国地方で、飼養羽数27万羽の大規模ブロイラー農場で腎炎型IBが発生し、ワクチンを変更しても出荷成績が回復せず、全羽オールアウトし、消毒の徹底により清浄化した症例を紹介します。

全24鶏舎のうち、1鶏舎で死亡羽数の増加が見られ、検査の結果、腎炎型IBと診断されましたが、その間に他の鶏舎も続発していました。IBウイルスの遺伝子型はJP-1型で、当農場で使用しているワクチンには入っていない型でした。そこで、JP-1型の入ったワクチンに変更しましたが、出荷成績が回復せず、また多くの鶏舎に広がりました。このことから、鶏舎ごとのオールインオールアウト（AIAO）を一旦止め、全鶏舎でオールアウトして農場全体を空舎にして、従来の鶏舎消毒プログラムにホルマリン燻蒸を加え消毒を徹底した結果、出荷成績が回復しました。現在、ワクチンの適正化に加え、農場全体のAIAOを行う方法に変更したところ、大きな疾病の発生もなく、良好な出荷成績を維持しています。

もし、疾病が続いたり、出荷成績が良くない場合は、今一度、ワクチンプログラムや鶏舎消毒方法などを見直してはどうでしょうか？



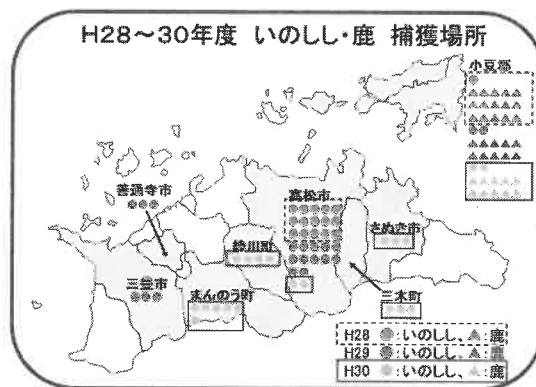
## 野生獣における病原体の検出状況調査 (平成30年度香川県家畜保健衛生業績発表会より)

平成28～30年度に香川県内で実施した野生獣（いのしし、鹿）の衛生実態調査の結果から、家畜と共通する病原体の検出状況をお知らせします。

① いのししでは、豚丹毒菌の抗体が全ての個体から検出されました。E型肝炎ウイルスの抗体は、H29年度40%、H30年度20%の個体から検出されました。このウイルスは、人に感染すると肝炎を引き起こします。また、マダニが媒介し、人の死亡例が報告されている重症熱性血小板減少症ウイルスの抗体検出率が年々高くなっています。さらに、トキソプラズマの抗体や食中毒の原因となるサルモネラも検出されています。

② 鹿では、H28年度にE型肝炎ウイルスの抗体が1頭から検出されました。

家畜への感染防止のためには、衛生管理区域への野生動物侵入防止等、飼養衛生管理基準の遵守徹底が必要です。また、人獣共通感染症対策のため、野生獣の解体処理の際には、防刃手袋の着用等感染の予防や、山野でのマダニ対策等にも十分気をつけましょう。



	病原体	検出状況(検出頭数/検査頭数)
いのしし	豚丹毒	抗体 H28:16/16、H29:20/20、H30:20/20
	トキソプラズマ	抗体 H28:2/16、H29:1/20、H30:4/20(疑陽性)
	E型肝炎	抗体 H28:0/16、H29:8/20、H30:4/20
	重症熱性血小板減少症(SFTS)	抗体 H28:1/16、H29:4/20、H30:6/20
	サルモネラ	菌分離 H29:1/20、H30:1/20
	豚コレラ、オーエスキー病、豚流行性下痢	陰性
鹿	E型肝炎	抗体 H28:1/15、H29:0/10、H30:0/10
	牛ウイルス性下痢・粘膜病、反芻獣ベスチ、SFTS、サルモネラ	陰性

## 新人だより

はじめまして。昨年10月より西部家畜保健衛生所に配属となりました四宮有果と申します。出身は高松市で、東京の大学を卒業後に地元香川に帰ってきました。大学では連日研究室に泊まりこみ、すさむ心を美味しいものを食べることで癒される、という名目で東京ならではのスイーツ巡りをしたり食べ放題に行ったりと順風満帆な美味しいもの生活を満喫していました。時々旅行に行っては観光もそこそこに現地の美味しいものを楽しんでいました。山梨県で食べた「ほうとう」に衝撃を受けて、こんなうどんもあるんだ！と一時期はほうとうにはまっていましたが、香川に戻り讃岐うどんを食べてやっぱりうどんは香川県が一番だと実感しています。

出身は高松市ですが、子供の頃に善通寺で育ったため西部家畜保健衛生所の周辺には懐かしい情景を感じています。知らない場所もたくさんあるので、休日にはグルメイベントやカフェ巡りついでに香川県内を探索しています。

配属から早10か月となりましたが、毎日のように新たな発見があり、生で見る畜産動物の力強さに驚いています。まだまだ未熟者ではありますが、香川県の畜産に貢献できるように日々努力を重ねていきます。



### <お知らせ>

○第19回讃岐牛女性の会牛枝肉共励会 9月6日(金) 坂出市 坂出食肉地方卸売市場

○香川県養豚研修会

日時：10月8日(火) 13時～ 場所：香川県農業試験場(綾川町)

内容 ①豚コレラとアフリカ豚コレラについて

②豚の呼吸器病及び豚サーコウイルス関連疾病について

○第83回香川県畜産共進会

乳用牛(第1部)、肉用種牛(第2部) 11月14日(木) 綾川町 香川県家畜市場

肉豚(第3部)：10月25日(金)、26日(土) 坂出市 香川県畜産公社

肉牛(第4部)：12月6日(金) 坂出市 坂出食肉地方卸売市場